退　院　時

退院後も含む

○原籍校の教員にお願いしたいこと

・本人の復学がスムーズになるように、連携会議等を医療者と協力して開き、病状や医療的な配慮事項等の情報収集をする。

退院時には、保護者の了解を得て転校先の学校や病院と協力して連携会議を開催するとよいです。その際は、管理職や養護教諭も必ず参加し、復学後の学校生活についての不安なことや配慮すべきこと等の情報を得るとよいです。そして、緊急時対応や感染予防対策、慣らし登校の必要性やその期間等、事前に何を確認したいのかを具体的に病院や転校先の学校に伝えておくとよいです。また、学校ではどのような生活や学習が計画されているのか「個別の支援計画」等を本人や保護者の了解の上で医療者に事前に渡しておくとより具体的な配慮事項を聞けることが多いです。

※退院後体調が整わず、普通校の合理的配慮ではなかなか学校に通学できない場合は、教育委員会や病弱教育を専門とする特別支援学校に相談するとよいです。

・入院及び自宅療養中の学習状況等についての情報収集をする。

書類の送付等のやり取りだけでなく、院内学級の教員と直接会い説明を受けるとよいです。院内学級在籍中のエピソード等を教えてもらい、復学時に緊張した本人をリラックスさせるための情報にするとよいです。また、できるだけ紙面にして情報を得ることも大切です。正しい情報をお互いに共通理解し、確実に情報を受け取るためにも紙面でのやり取りは大切です。そのためにも、知りたい情報の項目を事前に院内学級の教員に伝えておくとよいです。

・本人がいつ登校しても大丈夫なように、校内の準備をする。

学校内（全職員・学級等の仲間）で本人への配慮事項を共通理解しておくことがとても大切です。特に教員によって対応が違うと、本人や保護者の信頼を裏切ることになり、スムーズな復学の大きな妨げとなるので、十分に気を付けましょう。また、教室内での座席やロッカーの位置、靴箱等についても、事前に必ず用意しておくことが大切です。本人にとって、久しぶりの登校です。特に初日は大変緊張して登校してくることが多いです。その際、きちんと自分の名前があることは、とても嬉しいことで、その後の登校に良い影響を及ぼすことになります。

・学級の仲間への対応（病気についての説明等）をどうするか本人と相談する。

本人や保護者と相談し、学級の仲間やその他の学校の仲間に本人の病気や学校生活における配慮事項※について、どのように伝えるのか（いつ・誰が・どこで等）、その有無も含めて決めておくことが大切です。

本人の病気について説明をする場合は、事前に医療者のアドバイス等を受けてから行うとよいです。その際には、本人が知っている情報以上のことは伝えないといった、プライバシーへの配慮に十分気を付けることが大切です。さらに、説明をするときには、誰に対しても同じ内容の説明をするように気を付けることを忘れてはいけません。

※配慮事項は本人の病気や回復状況により変わりますが、以下を参考にしてください。

例・本人の頭髪等、以前とは見た目の様子が違うことについての説明。

- マスク等、治療のために以前には身に着けていなかった物を身に着けなければいけないことの説明。
- 治療のため見た目は元気そうでも、以前と比べ体力が落ちていることや保健室で休憩することが多いこと、また掃除や係の仕事がみんなと一緒に最後まではできないこと、体育や音楽等実技系の授業への参加がみんなとは同じようにできないことなどの説明。
- 本人が学級の仲間と同じように頑張りたいという気持ちから、頑張り過ぎてしまわないように、あまり「頑張れ」等の過度な励ましはしないことの説明。

・退院後の関係機関との連携方法の確認をしておく。

復学後の学校生活において、医療者等に協力を得たいときのために、どのように医療者等に連絡すればよいか確認しておくとよいです。連携会議が開かれる場合は、保護者も参加しているその場で確認するとよいです。それ以外は保護者を通して確認することが大切です。

※「関係機関との連携」のページを参照。

・原籍校に在籍している兄弟姉妹の様子に気を配る。

本人が入院や治療中には、その兄弟姉妹はいろいろな面で我慢してきたことが多く、精神的にストレスを抱えていると考えられます。そんな彼らへの配慮も忘れないようにすることが大切です。